

特集：徳島の緩和ケア**徳島県唯一の緩和ケア病棟「ホスピス徳島」を開設して
- 2年半の運営の実際と今後の問題点について -**

荒瀬 友子

医療法人若葉会 近藤内科病院緩和ケア病棟長

(平成17年5月17日受付)

(平成17年5月20日受理)

はじめに

ホスピス・緩和ケア病棟では治癒が望めないと判断された予後6ヵ月以内の悪性腫瘍患者を対象として、緩和的治療、看護を行っている。全国の承認された緩和ケア病棟は139施設(平成17年1月現在)であり、「ホスピス徳島」は平成14年4月に開設された現在のところ徳島県で唯一の緩和ケア病棟である。開設後2年6ヵ月間に222名の入院患者を受け入れ、192名をお見送りさせていただいた。

ホスピス徳島は1983年11月12日に徳島市の南に開院した近藤内科病院(ベッド数35床)の中に、平成14年の病院改築にあたり新たに併設された緩和ケア病棟で、ベッド数は20床あり、全室が個室となっている。そして、われわれの目指す緩和ケアの理念とは「生命予後の限られた患者の心と身体の苦痛を緩和するために、できる治療を精一杯行い、患者の思いを最大限に尊重し、命の質を高める医療を目指す、また家族が愛するひととの貴重なひとときを、少しでも充実して過ごせるようにお手伝いする」ことである(写真1)。



写真1

ホスピス徳島2年半の統計

ホスピス徳島の病床稼働率は平成14年度54.4%であったものが平成15年度は73.3%、平成16年度は半年間であるが85.6%と開設以来、年々上昇し、それにつれて平均在院日数も増加している(図1)。緩和ケア病棟では入院患者の殆どが死亡退院という特殊な状況にあり、死亡退院数は平成14年度:70名、平成15年度:79名、平成16年度半年:43名、と2年半の間に合計192名となっている。

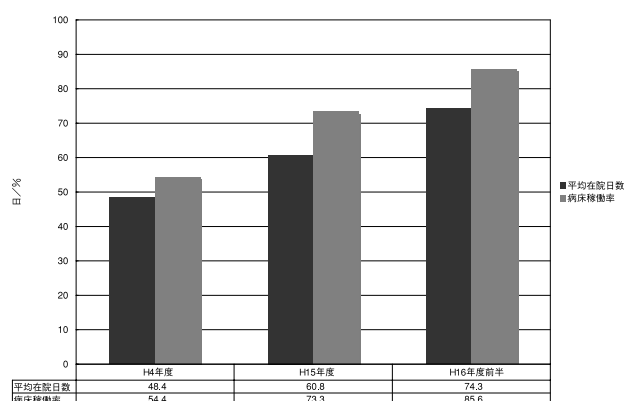


図1 平均在院日数と病床稼働率

192名の癌の部位別に占める割合をみると胃癌、肺癌、大腸癌、膵癌、肝癌の順に多くを占めている(図2)。

192名の男女比はほぼ同数、年齢分布は40代から90代の各年代にわたり70代が最も多く、平均年齢は70.5歳であった(図3)。

緩和ケア病棟在院日数は最短2日から最長574日まであり、平均は52.9日であった。このうち1ヵ月未満が56.8%と半数以上を占め、一方6ヵ月以上になった場合も5%あった(図4)。

入院に際してホスピス徳島についての情報源は、医師

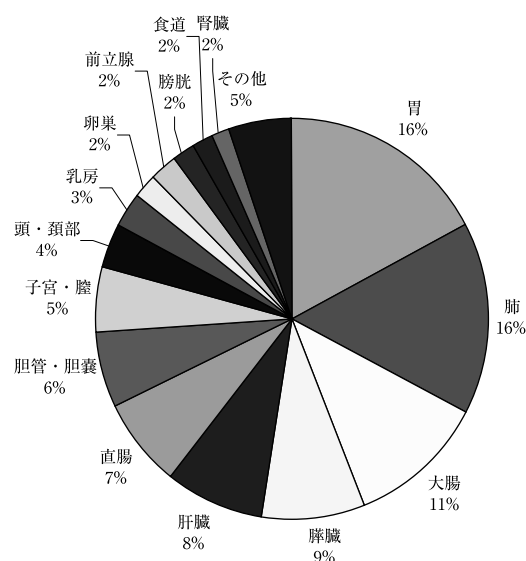
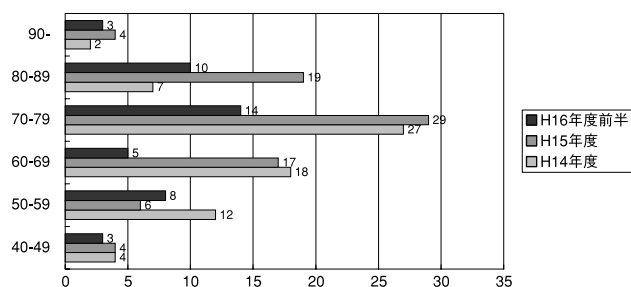
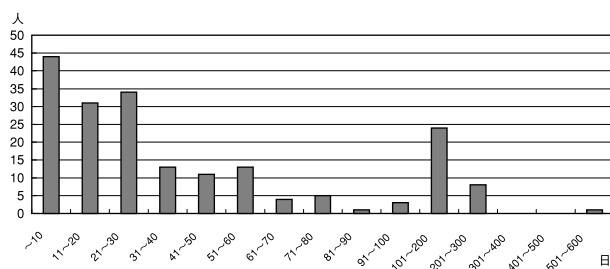


図2 悪性腫瘍の部位別に占める割合 (2002.4.1～2004.9.30)

図3 年齢分布 (2002.4.1～2004.9.30)
症例：192名 (男94：女98)
平均：70.5歳 (40～95)図4 緩和ケア病棟滞在日数 (2002.4.1～2004.9.30)
平均52.9日 (2～574日) / 192名

からの説明が最も多く、新聞などのメディアからや友人・知人、医療相談員、インターネットからも情報を得ていることがわかった (表1)。

192名のうち174名 (90.6%) は紹介患者であり、徳島県内の総合病院からの紹介が119名 (68%)、医院などからの紹介が43名 (25%)、県外からも12名 (7%) あった (表2)。

表1 「ホスピス徳島」への情報源

| | H14 | H15 | H16 |
|------------------|-----|-----|-----|
| 医師からの説明 | 21 | 46 | 24 |
| 知人・友人の薦め | 0 | 6 | 2 |
| 医療相談員からの説明 | 1 | 6 | 3 |
| 新聞から | 0 | 13 | 6 |
| インターネットから | 0 | 6 | 0 |
| 市民講座で話を聴いて | 0 | 1 | 0 |
| テレビなどメディアから | 1 | 0 | 4 |
| 身内・知り合いに医療関係者がいて | 0 | 2 | 2 |
| 身内・知り合いを緩和ケアで看取り | 0 | 1 | 2 |

表2 「ホスピス徳島」入院患者の紹介元
(2002.4.1～2004.9.30)

1) 徳島県内の医療施設からの紹介：162

| | |
|-----------|-----|
| 総合病院からの紹介 | 119 |
| 徳島大学附属病院 | 30 |
| 徳島県立中央病院 | 23 |
| 徳島赤十字病院 | 43 |
| 徳島市民病院 | 15 |
| その他 | 8 |
| 医院などからの紹介 | 43 |

2) 徳島県外の医療施設からの紹介：12

計 174 (90.6%)

192名の住所をみると徳島市を含む東部地区が最も多く約81.1%を占め、ついで南部地区が多く18.2%、西部地区は0.7%と少数であった。これは当院が徳島市の南、西新浜に位置しているための立地条件によると考えられる。実際、入院中の面会は頻回になることが多く、地理的条件も入院を考える際には重要である。

入院時の意識調査をみると、192名のうち緩和ケア病棟とわかって入院した患者は140名 (73%) であったが、52名 (27%) は未告知であった。告知済みの平均年齢66.4歳に比べ、未告知81.5歳と未告知の年齢層は告知に比べて明らかに高くなっている。緩和ケア病棟入院に際しては告知されていることが望ましいのであるが、病名告知は絶対条件ではなく、特に高齢者の場合は癌の告知の必要性がない場合もあると考えられる。

運営の実際

次に「ホスピス徳島」入院までの流れを説明すると、まず、医療相談員による緩和ケア相談の受付をして、予約制の緩和ケア外来での診察、相談を受けていただく。その後、緩和ケア病棟入退院判定会議において入院して

いただくのが適当と判定され、ベッドが確保されれば緩和ケア病棟入院となる（図5）。

緩和ケア病棟「ホスピス徳島」の入棟基準は、医師により治癒が望めないと判断された予後6ヵ月以内の悪性腫瘍の患者を対象とし、本人と家族、またはそのいずれかが入院を希望していることが原則であり、入院時に病名・病状について理解していることが望ましいが、理解していないときには本人の求めに応じて、適切な病名・病状の説明がなされることを家族が了承していることを必要条件としている（表3）。

医療相談員による緩和ケア相談の受付

緩和ケア外来での診察、相談（週1回）

（主治医の紹介状、血液検査結果、画像など必要）

緩和ケア病棟入院判定会議にて判定

緩和ケア病棟入院

（または外来通院、往診・訪問看護による在宅ケア）

図5 「ホスピス徳島」入院までの流れ

表3 緩和ケア病棟入棟基準
（近藤内科病院「ホスピス徳島」）

- 1) 医師により治癒が望めないと判断された予後6ヵ月以内の悪性腫瘍の患者を対象とする。
- 2) 患者と家族またはそのいずれかが入院を希望していることが原則であり、診療情報提供書があることが望ましい。
- 3) 入院時に病名・病状について理解していることが望ましい。理解していないときには患者の求めに応じて、適切な病名・病状の説明がなされることを家族が了承していること。
- 4) 社会的、経済的、宗教的な理由で差別しない。
- 5) 介護者休暇

緩和ケア病棟設置基準によれば、看護師の配置は入院患者数15人に対し看護師1名となっているが、末期癌患者が集まる緩和ケア病棟では多くの人手が必要で、とてもそれでは十分なケアができず、ホスピス徳島では20名（平成17年1月1日現在）の看護師が配置されている。それに対し緩和ケア専任医は1名で、その他、精神科医を含め多くの医師の協力を得て診療を行っている。また、緩和ケアは特にチーム医療が必要で医師、看護師のみならず多くのコ・メディカルチームケア、さらにボランティアの働きも重要となってくる。現在登録されているボランティアは10名で週2回のティーサービス、季節の

行事、カフェコーナーの営業などの活動を通して、日常の風を持ち込みくつろぎの時を作りだしている（表4）。

緩和ケア病棟入院費用について説明すると、健康保険が適用され、1日当たり37,800円の定額医療となっている（表5）。

表4 「ホスピス徳島」スタッフ

看護師：兼任師長1，主任1，専任19，助手2
 医師：緩和ケア専任1、兼任4（内科医）
 パート3（精神科医、内科医、麻酔科医）
 協力医（外科、整形外科、皮膚科、耳鼻科、眼科、歯科）
 緩和ケア相談員：専任1
 理学療法士：兼任1
 作業療法士：兼任1
 薬剤師：兼任1
 管理栄養士：兼任2
 音楽療法士：1
 ボランティア：10

表5 緩和ケア病棟入院費用

- 1) 医療費 定額医療 1日につき 37,800円（自己負担1～3割）
 （ただし、自己負担額が月額72,300円を超えるものについては、高額療養費支給制度の対象となります。）
- 2) 食費 一般 1日780円
 市町村税非課税世帯（入院90日以内） 1日650円
 市町村税非課税世帯（入院90日以降） 1日500円
- 3) 室料
 無料個室 10室
 有料個室 5,000円 7室、6,000円 2室、10,000円 1室
- 4) 雑費
 オムツ代、洗濯機・乾燥機使用料、貸し出し料、電気代など

まだ僅か2年半の経験ではあるが、ホスピス徳島での活動を通じてわれわれは、緩和ケアにおいてはペインコントロールを中心とした身体的症状の緩和だけでなく、患者本人のみならず家族を含めた精神的ケアの重要性を痛感している。現在、精神的ケアの実践についてわれわれは、医師、看護師、理学療法士などのスタッフによる日々のケアが最も重要であると考えて、常に患者の話を聴き、誠実に対応し、信頼関係を築くように努めている。看護師長をはじめ看護師スタッフ全員と理学療法士によるマッサージを通してのリラクゼーションと対話も非常に有効であるように思われる。その他、ボランティアによるティーサービス、音楽療法、季節の行事、ミニコンサートなども精神的ケアに寄与しているように思われる。また、ホスピス緩和ケアに特徴的な家族に対するケアについては、亡くなられて3ヵ月後に受け持ち看護師から

お見舞いの手紙を出し、さらに亡くなられて1年以上経過後の家族を対象に年1回家族会を開催している。

ここで少し病棟内の説明をしたいと思う。ホスピス徳島は廊下が広く作られていて(写真2)、病状に応じて歩行器、車椅子を使って、またベッドのまま病棟内の廊下を移動する散歩も行われている。病室はベッドの傍に清潔なトイレがあるのが特徴である(写真3)。ナースステーションが広く時には患者も滞在している(写真4)。寝たままに入れる介護浴室は最後まで入浴が可能で非常に喜ばれている(写真5)。ボランティアのティーサービスも好評である(写真6)。デイルームでは季節の行事、ミニコンサートも行われる(写真7)。ミニコンサートはピアノのある1階緩和ケアラウンジでも行われている。

表6は平成15年度1年間に行われた「ホスピス徳島」行事一覧である。

表6 平成15年度「ホスピス徳島」行事一覧

| | |
|-----|-----------------------|
| 4月 | お花見お茶会、ミニコンサート(落語会) |
| 5月 | 端午の節句お茶会、緩和ケアガーデン鯉のぼり |
| 6月 | ミニコンサート(フルートとピアノ) |
| 7月 | 七夕祭りお茶会 |
| 8月 | 阿波踊り(ぼんま連)、勝浦川健康花火大会 |
| 9月 | お月見お茶会 |
| 10月 | ミニコンサート(フルートとピアノ) |
| 11月 | 秋味わいお茶会、オカリナ演奏会、家族会 |
| 12月 | クリスマス会 |
| 1月 | 餅つき大会 |
| 2月 | 節分豆まきとお茶会 |
| 3月 | ひな祭りお茶会 |



写真2



写真5



写真3



写真6



写真4



写真7

4. 今後の課題

さて、徳島県における平成14年の癌による死亡者は2,260人であり、その内「ホスピス徳島」における死亡者数は70人でわずか3.1%にしか過ぎない。全国的にみてもホスピスで亡くなる患者の割合は約3%と同様の状況である。

今後の課題として、ホスピス徳島のさらなる充実のためにホスピス専門看護師の養成、緩和医療専門医の増加をはかり、精神的ケアの専門者、ボランティアの募集を行うこと、さらに在宅ホスピス・緩和ケアの推進を目指すことなどがある。在宅療養を可能にするためには地域の診療所などとの病診連携、訪問看護ステーションとの連携も必要である。ホスピス徳島でお受けできるのはわずか3%にしかすぎないので、その他の多くの末期癌の方は一般病院で最期の時を迎えているわけである。ホスピス・緩和ケアの一般医療への普及も重要な課題であり、今後は一般病棟での緩和ケアの推進が是非とも必要である。この春から徳島大学病院、市民病院の医師の卒後研

修が開始される予定となっているが、診療と教育を両立させるためには緩和ケア専門医の増員が是非とも必要である。ホスピス徳島では緩和ケア専門医を募集している。是非応募して下さい。

「ホスピス徳島」 緩和ケア相談

TEL : 088 663 0070

医療相談員

(メディカルソーシャルワーカー)へ

インターネット

<http://www.kondo-hp.com/>

近藤内科病院ホームページへ

参考資料

- 1) 志真泰夫：わが国におけるホスピス・緩和ケアの歩み - 現状と展望 - . ホスピス・緩和ケア白書2004 : 19, 2004
- 2) 恒藤 暁：わが国のホスピス・緩和ケア病棟の実態 . ホスピス・緩和ケア白書2004 : 10-15, 2004

The two and half year experience of Hospice Tokushima

Tomoko Arase

The Medical Director of Hospice Tokushima, Kondo Hospital, Tokushima, Japan

SUMMARY

Hospice Tokushima, the first hospice in Tokushima, was opened in April 2002. Since then, 192 patients included 70 in 2002, 79 in 2003, and 43 in the front half of last year have past away for two and a half years. Of those patients, the average of age was 70.5 years old. They stayed for average of 53 days at the hospice. The number of patients has increased gradually. Ninety one % of patients were recommended from other hospitals. Twenty seven % of patients did not know their diagnosis of diseases. Hospice Tokushima has 20 private rooms, and the occupation rate of bed increased year by year, 54.4% in 2002, and 73.3% in 2003. It is important that the team of doctors, nurses, co-medicals and volunteers cares patients together.

We have learned that the role of palliative care is not only symptom control but also mental care of the patients and their families.

Key words : hospice palliative care, Hospice Tokushima, analysis of hospice patients